

ピクトリアル 1985-2015

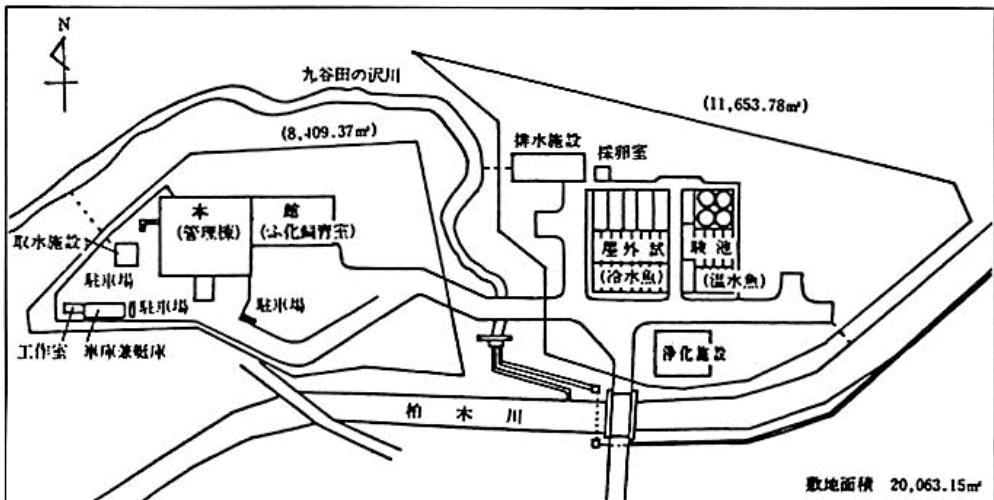
－水産孵化場からさけます内水試へ－

北海道立水産孵化場本場は1985年11月20日に札幌市豊平区中の島から恵庭市北柏木町に移転した。本項では移転30周年を記念し、支場も含めたこの間の画像を紹介する。

新庁舎落成



庁舎航空写真 研究管理棟は地上2階地下1階，延面積2,216㎡で試験場としては当時最新の研究設備を備えていた。 1985.11



構内配置図 左側が研究管理棟，ふ化飼育室，車庫兼艇庫，取導水施設，右側が排水施設，屋外試験池，浄化施設である。

ご視察の記録

水産試験場としては当時最新の研究設備を備えた水産
孵化場には北海道外からも多くの方が視察に訪れた。
以下にご来訪された皇族の方々の写真を示す。



天皇，皇后両陛下が北海道立水産孵化場をご視察． 研究している魚について前田場
長より説明を受けられる． 皇后陛下左後方は横路知事． 1989.9.29.



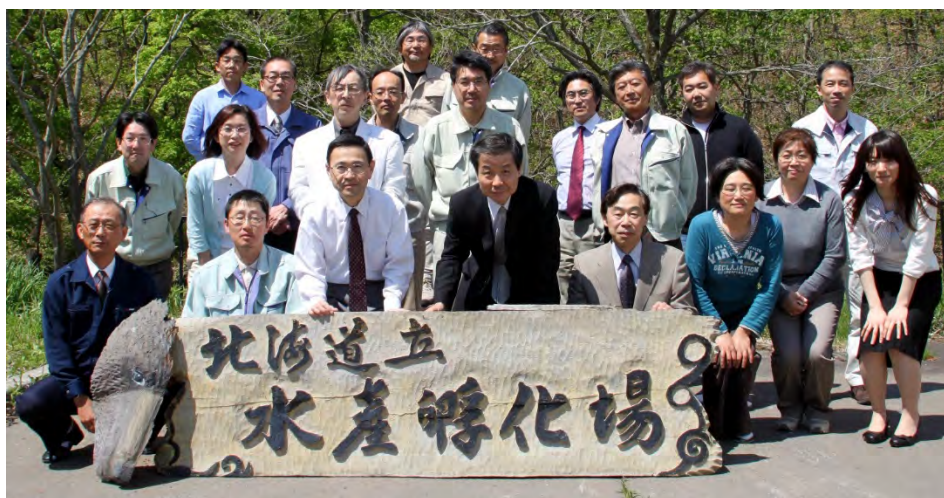
皇太子殿下が北海道立水産孵化場をご視察． 説明は同じく前田場長， 右は横路知事．
1991.3. 1.

水産孵化場からさけます内水試へ

2010年4月，22の道立試験研究機関を統合して地方独立行政法人北海道立総合研究機構（道総研）が発足，水産孵化場はさけます・内水面水産試験場となった。



水産孵化場時代の看板 木彫りのクマとサケの看板は当時恵庭市の名物であった。1989.



取り外された看板 道総研への移行に伴い看板を撤去。職員一同記念撮影。2010.5.31



現在の看板 同所には現在この看板が立っている。2016.3.17.

6支場時代 - 要覧に見る水産孵化場 -

1985年に水産孵化場本場は恵庭市に移転し、森，増毛，えりも，宗谷，真狩，熊石の各支場と合わせて本場・6支場体制となった。以下では当時使用されていた要覧の一部を示し，これらの歴史を振り返る。

1 本場と各支場の位置
Locations of the Head Office and Research Branches

宗谷支場
〒098-025 稚内市大津米谷中津橋675-1
TEL: 0162-26-2393 FAX: 0162-26-2393
Soya Research Branch
675-1 Maikoku, Soyomura
Wakkanai, Hokkaido 098-025 Japan
Phone: (0162)26-2393 Fax: (0162)26-2393

真狩支場
〒048-16 釧路市南別府中津橋163-1
TEL: 0136-45-3473 FAX: 0136-45-3473
Makino Research Branch
163-1 Inada, Makino-cho
Hokkaido 048-16 Japan
Phone: (0136)45-3473 Fax: (0136)45-3473

熊石支場
〒043-0242 帯広市南東町中津橋1189-43
TEL: 0137-2370 FAX: 0137-2370
Kumamoto Research Branch
1189-43 Inayama, Kumamoto
Hokkaido 043-04 Japan
Phone: (0138)2-2370 Fax: (0138)2-2370

本場
〒061-1423 恵庭市北水原3丁目373
TEL: 0123-32-2135 FAX: 0123-34-7233
Head Office
373 Kitasawa-cho 3, Enetsu
Hokkaido 061-14 Japan
Phone: (0123)32-2135 Fax: (0123)34-7233

宗谷支場
〒048-025 釧路市南別府中津橋163-1
TEL: 0136-45-3473 FAX: 0136-45-3473
Makioka Research Branch
163-1 Inada, Makioka-cho
Hokkaido 048-16 Japan
Phone: (0136)45-3473 Fax: (0136)45-3473

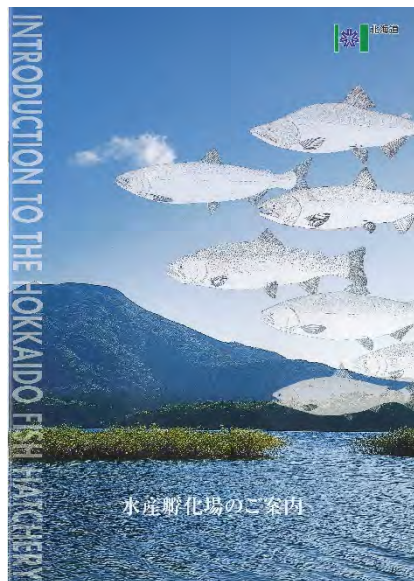
増毛支場
〒043-0425 帯広市南東町中津橋1189-43
TEL: 0137-2370 FAX: 0137-2370
Maikoku Research Branch
1189-43 Inayama, Maikoku-cho
Hokkaido 043-04 Japan
Phone: (0137)2-2370 Fax: (0137)2-2370

真狩支場
〒048-16 釧路市南別府中津橋163-1
TEL: 0136-45-3473 FAX: 0136-45-3473
Makino Research Branch
163-1 Inada, Makino-cho
Hokkaido 048-16 Japan
Phone: (0136)45-3473 Fax: (0136)45-3473

森支場
〒048-025 帯広市南東町中津橋1189-43
TEL: 0137-2370 FAX: 0137-2370
Morikoshi Research Branch
1189-43 Inayama, Morikoshi-cho
Hokkaido 048-02 Japan
Phone: (0137)2-2370 Fax: (0137)2-2370

えりも支場
〒061-1423 恵庭市北水原3丁目373
TEL: 0123-32-2135 FAX: 0123-34-7233
Ermo Research Branch
373 Kitasawa-cho 3, Enetsu
Hokkaido 061-14 Japan
Phone: (0123)32-2135 Fax: (0123)34-7233

1994年版水産孵化場要覧見開き 本場と6支場の位置と施設概要を見開きで示している。



サケ・マス及び内水面の調査・研究・指導を行う機関として本場と支場の連携のもとに活動しています。

本場
〒061-1423 恵庭市北水原3丁目373
TEL: 0123-32-2135 FAX: 0123-34-7233

道北支場
〒077-0168 紋別市北水原町中津橋1365-1
TEL: 0164-69-2352 FAX: 0164-69-26-3040

道南支場
〒043-0425 帯広市南東町中津橋1189-43
TEL: 0137-2370 FAX: 0137-2370

道東支場
〒086-1104 網走市南水原町中津橋311丁目1104
TEL: 0157-2-8141 FAX: 0157-2-5188

道東内水面室
〒093-0131 網走市南水原町中津橋1丁目1104
TEL: 0152-47-1172 FAX: 0152-47-1173

本・支場の位置

2004年版水産孵化場要覧表紙(左)，本・支場位置図(右) 2004年までに宗谷，えりも，真狩，森支場が廃止され，道東支場と道東内水面室が新設された。増毛支場は道北支場に，熊石支場は道南支場に名称が変更された。

6支場時代 - 要覧に見る水産孵化場 -

水産孵化場時代（～2010年3月）の6支場は独自の要覧を作成していた。以下に示すのは1985～2010年頃に使用されていた要覧の一部である。作成は各支場に任されていたため、それぞれ個性的な要覧となった



森支場要覧表紙 事務室とサケ稚魚池（手前）。稚魚池は屋外型で冬期は日覆板で遮光された。



■サクラマス親魚養成池

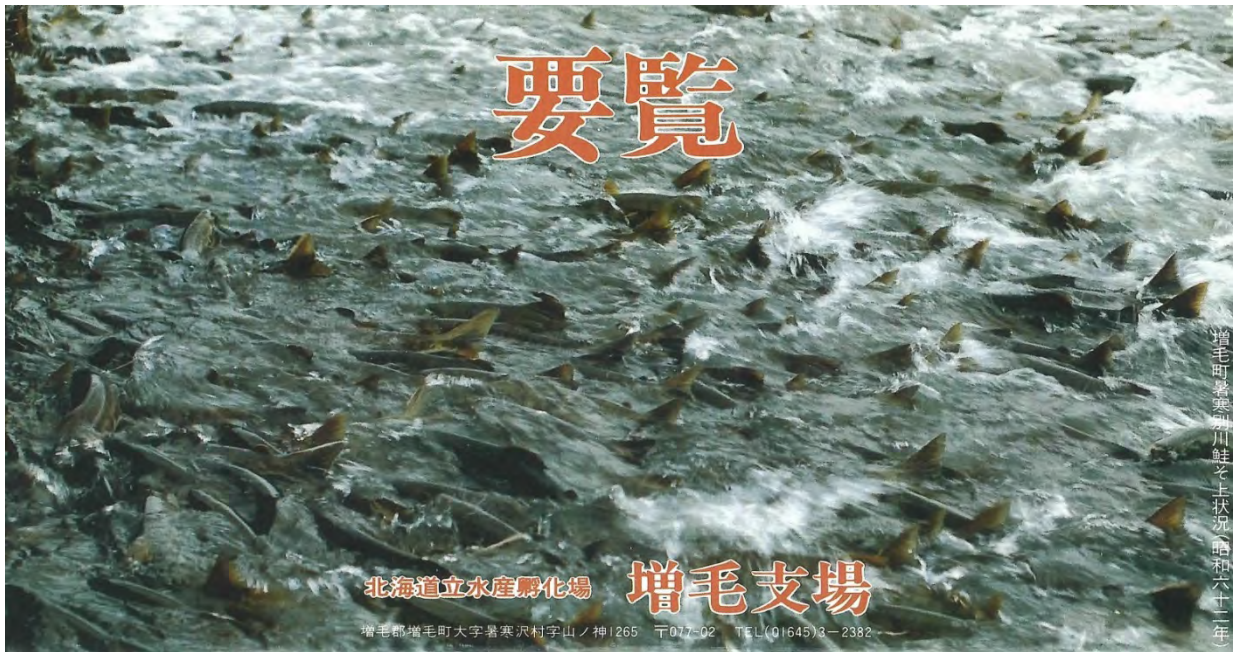
大、中、小合計10面あり、900万粒採卵に必要な親魚を養成する。大型池2面には、作業の効率化を図るため、曳網用レールが設けられている。池後部の建物は採卵舎である。

■養魚池棟

サクラマス稚魚の飼育施設で、棟内には1面5㎡の養魚池が8面ある。棟の右端部は発電機室で、出力45KVAの自家発電機が万一の停電に備えている。

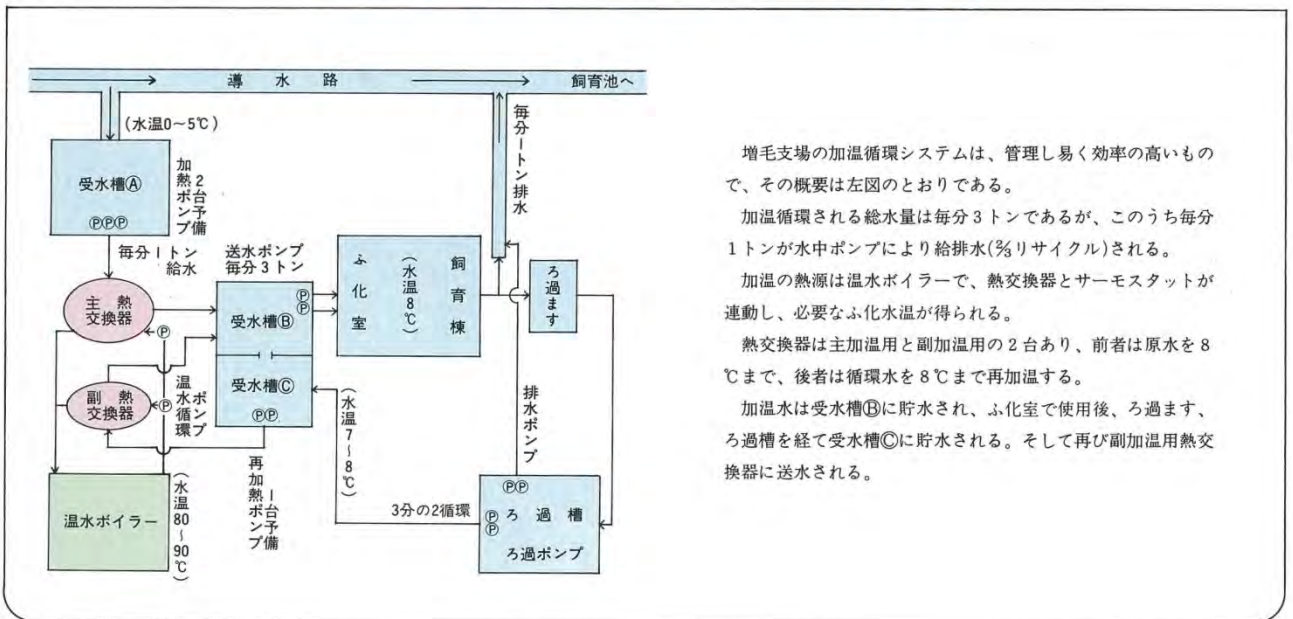
要覧裏面（一部） 池産サクラマス種卵生産のための養成池と養魚池棟を示す。日長をコントロールするため、サクラマス稚魚は屋内池で飼育されていた。

6支場時代 - 要覧に見る水産孵化場 -



増毛（道北）支場要覧表紙 写真は暑寒別川に大量回帰するサケ親魚である。増毛支場では約2000万尾のサケ稚魚を飼育し、暑寒別川をはじめとする留萌管内の河川に放流した。

管理棟ふ化用水の加温循環システム



要覧裏面（一部） 留萌地方はサケ稚魚飼育に適する水資源（水温約8℃）が不足しており、増毛支場では加温システムを用いて低水温の河川水を飼育に適した水温とした。

6支場時代 - 要覧に見る水産孵化場 -

要覧



北海道立水産孵化場えりも支場

☎058-02 幌泉郡えりも町字歌別434-1番地 ☎(01466)-2-3246

えりも支場要覧表紙 庁舎前景



孵化盆 サビ防止等の耐久力を高めるため、アルミニウムおよびステンレス製を使用している。



孵化室 ふ出稚魚が卵黄を吸収するまで収容可能な立体式ふ化器100基を配置し、2,000万粒の卵を収容できる。

要覧裏面（一部） 立体式ふ化器と孵化室を示す。えりも支場ではサケのほか、日高地方以東に遡上するカラフトマスの稚魚を飼育した。

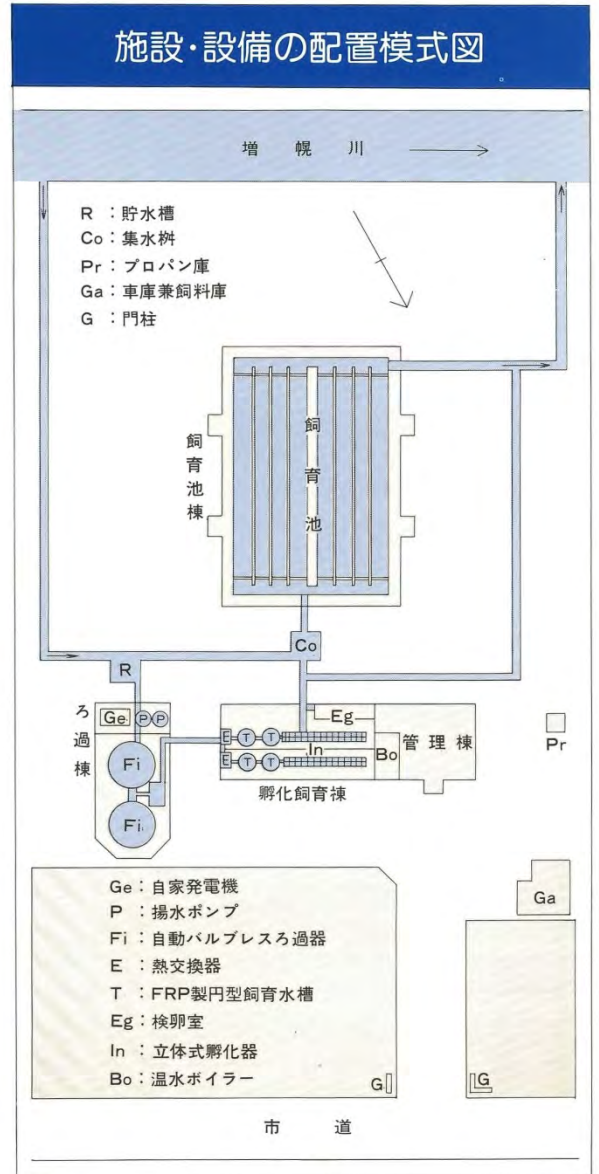
6支場時代 - 要覧に見る水産孵化場 -



宗谷支場庁舎前景

要覧

北海道立水産孵化場
宗谷支場
稚内市大字宗谷村字増幌675の1
〒098-66 TEL(0162)26-2393



宗谷支場要覧表紙（左） 要覧裏面（右：一部） 宗谷支場では泥炭地で浮遊物の多い増幌川の河川水を濾過して孵化・飼育用水に用いていた（右模式図）

6支場時代 - 要覧に見る水産孵化場 -



要覧

北海道立水産孵化場

真狩支場

虻田郡真狩村字泉163の1

真狩支場要覧表紙 庁舎の俯瞰図と羊蹄山を示す。



飼育池 池底注水管はもとより側壁散水管も取付けることにより、飼育池の環境改善に努めた。特に飼育用水が豊富にあるので2次使用は行わず、すべて1次使用のみで飼育できる構造にした。



用水水源池 羊蹄山麓の豊富な湧水に恵まれ、十分な水量とサケのふ化に最も適した水温が得られる。また、自然の落差を利用し、すべて注排水は自然流下で行われ、ポンプ等の機械設備が全くないのが特徴である。従って、故障の心配もなく管理する職員の労力の軽減はもとより、ランニングコストも軽減でき省エネタイプのふ化場である。

要覧裏面（一部） 飼育池と養魚用水の水源地を示す。真狩支場は羊蹄山麓の豊富な湧水に恵まれ、サケ稚魚を大量に飼育した。

6支場時代 - 要覧に見る水産孵化場 -

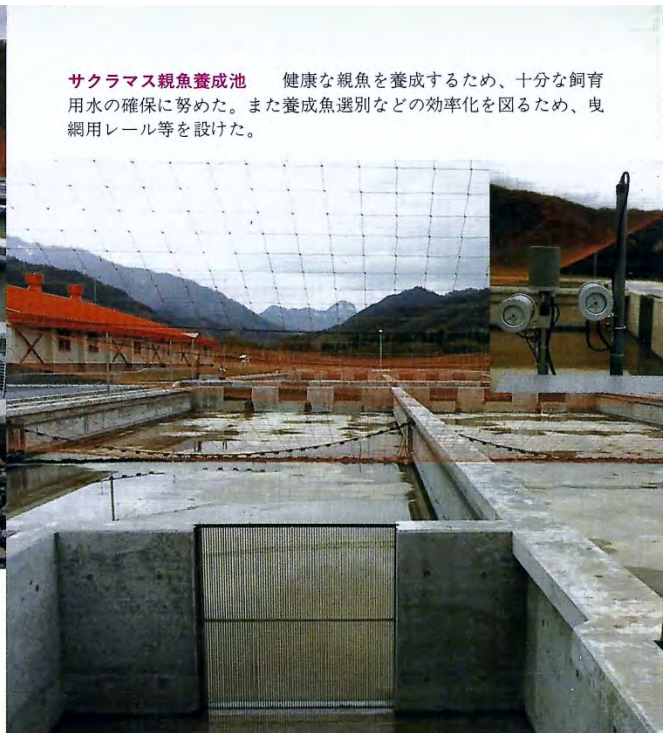
要覧



熊石（道南）支場要覧表紙 庁舎の前景



飼育池 より良い飼育環境を保ち健苗を養成するため、池底注水管、側壁散水管等を備えた合理的な構造にした。



要覧裏面（一部） 飼育池とサクラマス親魚養成池を示す。
熊石支場は森支場と合わせて池産サクラマス種卵900万粒を生産した。



パネルディスカッションの様様



参加者は約260名であった



研究成果の紹介



サクラマスを使った試食会

1996年9月9日、函館市ハーバービューホテルでサクラマスフォーラム'96を開催した。テーマは「これからのサクラマス増殖を考える」であった。

1998 サクラマスフォーラム 小樽



参加者は約350名であった



パネルディスカッションの様様

1998年1月24日に小樽国際ホテルでサクラマス・フォーラム'98 -北海道のさけ・ます釣りを考える-を開催した。

講演会

2003 サクラマスフォーラム 札幌



展示を見る参加者 越後茂樹氏の講演



パンフレット

2003年3月23日、サクラマスフォーラム2003を札幌市のかでの2・7で開催した。参加者約100名で、越後茂樹氏が基調講演を行ったあと活発なディスカッションが行われた。

2009 サクラマスフォーラム 島牧



会場



漁業者との意見交換

2009年12月12日、島牧村においてサクラマスフォーラム2009 in 島牧を開催した。テーマは「これからのサクラマス増殖を考える」であった。



配布CD

プログラム

第9回「ワカサギに学ぶ会」プログラムおよび要旨

日 時：2003年3月11日 09:30～17:00
 会 場：道庁赤レンガ庁舎
 09:30 開会
 09:50～12:10 話題提供 (1)

北海道のワカサギについて —漁業と遊漁— 坂本博幸 (北海道立水産孵化場)
 北海道石狩地方におけるワカサギ人工ふ化放流の改善試験 佐々木義路 (北海道立水産孵化場)
 芦ノ湖におけるワカサギの採卵・ふ化放流方法について 樋川宗彦 (芦之湖漁業協同組合)
 ワカサギ初期飼育におけるフムシの給餌について 井塚 隆 (神奈川水産総合研究所内水試)
 網走湖におけるワカサギの重要餌生物 イサザアミ (*Neocystis intermedia*) の生態に関する二、三の知見 浅見大樹 (道中央水試)
 石狩川水系・河口周辺におけるシラウオ仔稚魚の分布と採餌 岡田のぞみ (道中央水試)
 釧路湖におけるワカサギの初期生活について 田原健成 (長野水試諏訪)

13:00～15:30 話題提供 (2)

野伊川河口域に出現するワカサギ仔魚 佐々木 剛 (宮古水産高)・猿渡敏郎 (東大海洋研)・渡辺精一 (東水大)
 網走湖産ワカサギの分布密度と成長率 虎尾 充 (道野化場)
 An analysis of Japanese smelt populations using parasites as biological tags (寄生虫を生物指標としたワカサギ個体群の解析) 大友智和 (北大地環研)
 宍道湖における夏季水温とワカサギ、シラウオ遊獲量との関係 藤川裕司 (島根内水試)
 阿寒湖のワカサギ資源管理について 坂本博幸 (道野化場)
 ワカサギの資源変動要因について 谷村明俊 (茨城内水試)
 十和田湖におけるワカサギ資源の変動について 天野勝三 (青森内水試)

15:45～16:45 総合討論
 16:45～17:00 閉会

2003年3月11日、第9回「ワカサギに学ぶ会」を札幌市の道庁赤レンガ庁舎で開催した。参加者全員に過去の講演要旨を収録したCDを配布し、好評を博した。

2012 第16回ワカサギに学ぶ会 網走



韓国国立水産科学院 成博士の講演



網走市坂崎港湾水産部長の挨拶



エクスカージョンで網走湖の氷下漁を見学

2012年1月26～27日、北海道網走市で「第16回ワカサギに学ぶ会」を開催した。講演翌日には参加者のエクスカージョンも行われた。海外含め約100名が参加。

講演会 2007 ヤツメ孵化技術研修会



技術指導の様様

②採卵・採精作業

採卵は二人一組で行いましょう。一人がタオルなどで頭を持ち、もう一人が腹部を生殖口に向けて圧搾し、プラスチックの容器に卵を取ります。血液が混ざらないように二人で注意しながら採卵しましょう（下の写真）。



採精も二人一組で行いましょう。タオルやティッシュで魚体（特に矢印や赤線の枠で示した生殖突起付近）の水分を十分に拭き取ってください！ 精液が薄まると精子が動き始め、やがて運動を停止し受精できない精子になりますのでご注意ください。一人がタオルなどで頭を持ち、もう一人が腹部を生殖口に向けて圧搾し、プラスチックの容器に精液を取ります（下の写真）。



作成したマニュアル

2007年6月7日に江別市野幌公民館でヤツメ孵化技術研修会を開催した。 当场で作成したマニュアルに基づき、 漁業関係者に採卵と人工孵化技術を指導した。

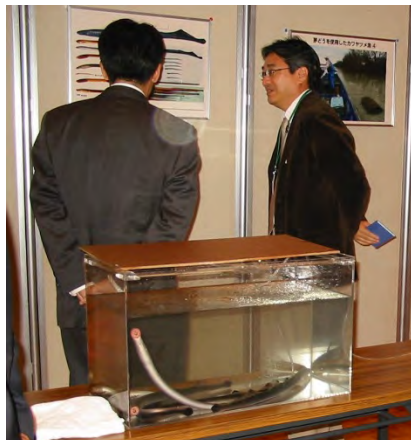
2008 ヤツメウナギを考える会



パネルディスカッションの様様



酪農学園大 村野教授の講演



水槽とパネル展示



加工品の展示

2008年11月7日に江別市においてシンポジウム「ヤツメウナギを考える会～あれから三年～」を開催した。 講演とパネルディスカッションが行われた。 約100名が参加。

地域との連携

職場体験学習

2012.10.23-25.



サケの魚体測定と解剖

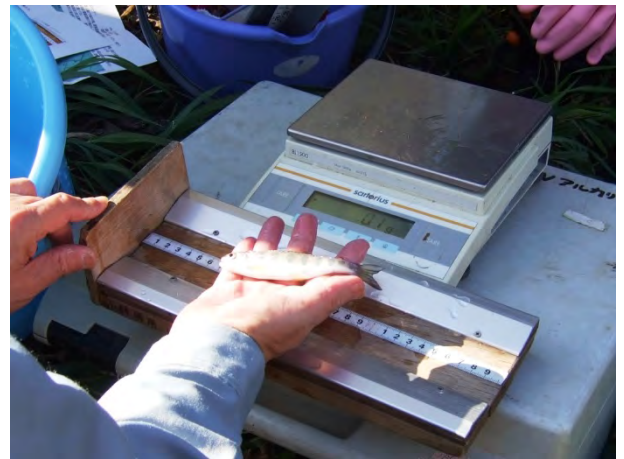


パソコンで学習の記録を作成

2013.10.22-24.



ユカンボシ川で水質の測定



採集した魚類を同定し，測定

2015.10.20-22.



鱗を投影してサケの年齢査定



ニジマスの解剖

さけます内水試では近年、継続的に恵庭市立白陽中学校から職場体験学習の生徒を受け入れている。体験学習ではあるが、実際に業務で実施している作業と同様の内容を行ってもらう。

サッポロファクトリー 2009.7.29



タッチプールで生きた淡水魚に触れる



ポスターで魚の説明



野生サクラマス稚魚の展示

ケースデンキ月寒ドーム 2014.8.6



水槽に見入る子供たち

札幌駅前通地下歩行空間 2015.8.6



ひれを描いて魚の体を学習



生きた水生生物の展示

内水試では道庁主催のサイエンスパークに出展し、子供たちにわかりやすく成果を普及している。

一般への普及

農試公開デー

中央農業試験場 2014.8.1.



野生サクラマス稚魚の展示



子供たちの質問に答える職員

中央農業試験場 2015.7.30.

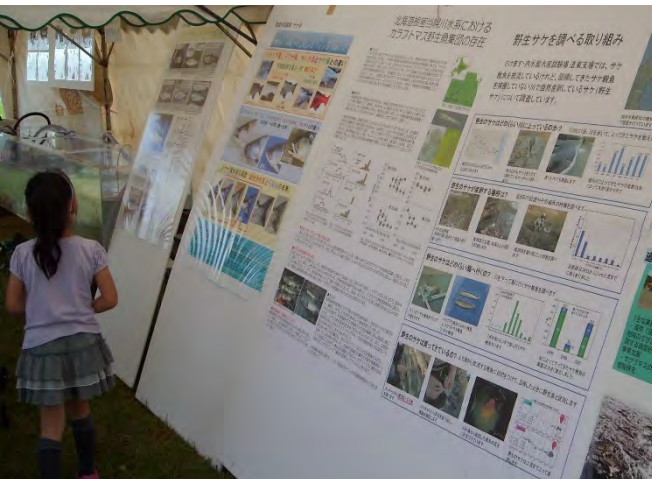


水槽に見入る子供



ひれを描いて魚の体を学習

根釧農業試験場 2013.8.6.



水槽展示とポスター



ニジマスのつかみ取り

さけます内水試では各地の農業試験場の公開デーに出展している。研究の対象となる魚を生体で展示することで一般への成果普及を計る取り組みであるが、子供には人気の様である。

職員の表彰

1985年以降，さけます内水試の職員はいくつかの外部機関から表彰を受けている．近年の表彰の例を示す．



水野研究主任 平成23年度「日本農学進歩賞」を受賞 2010.11.21



竹内研究主幹 平成25年度北海道農業土木協会賞「奨励賞」を受賞 2013.8.30.



工藤主任研究員 平成25年度「優秀研究業績全国水産試験場長会会長賞」を受賞 2013.11.14.



宮腰研究主幹 「日本水産学会 平成25年度水産学技術賞」を受賞 2013.3.30.

アクシデント！ 7月29日は災厄の日？

各支場は市街地から遠い地域に位置しており、自然災害に見舞われることも多かった。以下はその自然災害の様子である。



増毛支場大洪水！ 1999年7月29日、大雨により暑寒別川が氾濫、構内に濁水が流れ込み夕方には床上以上の水位となったが、枯草が玄関ドアなどの隙間に詰まったため室内への床上浸水は免れた。写真は翌日の状態。 1999.7.30.



熊石支場に熊出現！ 2000年7月29日、熊石支場構内すぐ横の木にヒグマがいるのが発見され、ハンターが出動して射殺した。支場に被害はなかった。 2000.7.29.

残像

2016年4月にさけます内水試は本場(恵庭市), 道南支場(八雲町), 道東センター(中標津町)の3カ所となる。ここでは現在も残る水産孵化場時代の痕跡を示す。

旧森支場の表札 森支場は2004年に試験地となり, 現在は渡島管内増協の森孵化場となっている。しかし, 表札は1968開設時の森養鱒場のままである。2015.3.



廃場後の道北支場(旧増毛支場) 留萌管内のサケ増殖に大きな功績のあった道北支場は2011年11月30日にその使命を終え廃場となった。2012.7.15.

旧各支場所有のトロ箱 各支場はトロ箱にそれぞれ支場名を記入していた。所有者は現存しないが, トロ箱は現在でもその役割を果たしている。2015.9.

